

宇宙人東京に現わる (1956)

メディア 映画
ジャンル 特撮 SF
製作国 日本
色彩 Color
時間 87分
初公開日 1956/01/29

【解説】

日本特撮初の本格的カラーSF映画。岡本太郎デザインによるパイラ人が異彩を放つ。世界各地でUFOの目撃が話題となっていた頃、東京の天文台で助手の磯辺は謎の発光体を発見する。研究を進めるうち、やがてヒトデ型の宇宙人・パイラ人が出沒し始める。パイラ人たちは、地球に天体が接近しつつあることを告げるのだが……。

異星人を登場させながらも侵略テーマではなく、一種のコンタクト・テーマに主眼が置かれている点が目新しい。パイラ星人は巨大化せず、地上に降りても垣根から覗くだけというのがいかにも地味だが、作品の持つメッセージ性はその分よく出ていたと言える。主人公・磯辺には「アフタヌーンショー」でお馴染みの川崎敬三が扮している。

【クレジット】

監督	島耕二	
製作	永田雅一 [製作]	
企画	中代富士男	
原案	中島源太郎	
脚本	小国英雄	Hideo Oguni
撮影	渡辺公夫	
美術	間野重雄	
色彩指導	岡本太郎	
編集	鈴木東陽	
音楽	大森盛太郎	
特殊技術	的場徹	
	築地米三郎	
	田中捨一	
出演	刈田とよみ	青空ひかり/天野銀子 (パイラ人)
	川崎敬三	磯辺徹
	八木沢敏	パイラ人第2号
	見明凡太郎	小村芳雄
	南部彰三	磯辺直太郎
	フランク・熊谷	Frank Kumagai 天文台通信係
	河原侃二	高島博士
	岡村文子	お花
	永井エミ子	小村多恵子
	小原利之	天野健一
	平井岐代子	松田清子

斎藤紫香
山形勲
夏木章
目黒幸子
渡辺鉄弥
泉静治
谷謙一
杉田康
津田駿二
花村泰子
原田該

紳士を振った男
松田英輔
パイラ人第3号
磯辺徳子
三吉
酔客
用心棒
新聞記者
パイラ人第4号
芸者
船員